

会議の名称	第1回 和泉市都市再生整備計画事業評価委員会
開催日時	平成24年10月26日(金) 10時から12時まで
開催場所	市役所3号館3階 市議会委員会室
出席者	<p>【委員】 内田 敬 委員長・藤田 香 副委員長・西岡 渥美 委員</p> <p>【事務局】 都市デザイン部 都市政策監 : 松林 同 再開発担当次長 : 坂口 同 再開発課長 : 矢倉 同 再開発課係長 : 池辺 同 再開発課 : 大内 同 再開発課 : 田山 同 道路河川室参事 : 近藤 同 道路河川室参事 : 高嶋 同 道路河川室 : 三木 生涯学習部 読書振興課 : 中野</p>
会議の議題	都市再生整備計画事業評価について(JR和泉府中駅周辺地区)
会議の要旨	(1) 事後評価の手続き及び都市再生整備計画の目標の達成状況の確認等の結果について・・・説明・検討 (2) 今後のまちづくり方策について・・・説明・検討
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている。 <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の必要事項	会議公開 傍聴人数 1 名
審議内容	別紙のとおり

(司会者)

定刻となりましたので、ただ今から第1回和泉市都市再生整備計画事業評価委員会を開催いたします。誠に恐縮ではございますが、本日の司会を務めさせていただきます私、都市デザイン部再開発課の池辺でございます。どうぞよろしく願いいたします。本日は皆様方におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席賜り誠に有難うございます。

それでは、お手元の次第に従いまして、進めさせていただきたいと思っております。なお本委員会は和泉市審議会等の設置及び運営に関する規則に基き、委員会を公開とし、傍聴を認めておりますので、よろしくお願い申し上げます。また議事録についても公表させていただきますのでご了承願います。それでは委員会の開催にあたり、辻市長からご挨拶申し上げます。

(市長)

皆様おはようございます。市長の辻でございます。

本日は大変お忙しいところ都市再生整備計画事業評価委員会にご出席いただきまして、またこの度は委員にご就任いただきまして重ねてお礼を申し上げます。また、平素より皆様方には多方面にあらましまして和泉市のまちづくりにご提言またご尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

和泉市では将来都市像「人がきらめき共に育む元気なまち和泉」の実現を目指しまして、和泉府中駅周辺におきましても都市にふさわしい活力と潤いのある市街地へのまちの再生を図るために、最重要課題でございます和泉府中駅前再市街地開発事業をはじめ和泉府中駅舎及び駅前広場の整備、また駅西側へ抜ける自由通路の整備などを鋭意取り組んでいるところでございます。本日ご審議いただきます都市再生整備計画事業におきましても、市街地再開発事業を核としました一体的な地域整備によりまして、災害に強いすまいと安全で快適なまちづくりを進めるとともに、商業・業務活動に新たな活力をもたらしまして、地域の文化・交流活動を促進するまちづくりを実現したいというふうに考えております。

これからは地方の時代と言われておりまして、民主党がいろいろな公約を果たしていない中で、唯一進んだのは地方分権ではないかと。これは評価できると言われていますが、まさに分権が進んでいく中でしっかりとそれを受け止める我々がまちづくりや、仕組みづくりにいいものを残していかなければならないと思っておりますので、これからも変わらぬご指導とご協力賜りますようお願いを申し上げます。最後になりますが、皆様の更なるご活躍を心からご祈念申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

(司会者)

ありがとうございました。続きまして、この度委員をお引き受けくださいました皆様に市長より委嘱状の交付をさせていただきます。それでは、市長よろしく願いいたします。

【委嘱状の交付】

ありがとうございました。続きまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

奥の席から内田 敬様でございます。内田様は大阪市立大学大学院工学研究科教授で、交

通工学、国土計画など幅広い分野でご活躍されており、また和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会委員として、本市の公共交通などにご尽力いただいております。

続きまして、藤田 香様でございます。藤田様は、近畿大学総合社会学部教授で、環境経済学、環境問題の歴史・財政学などで活躍されており、また和泉市都市計画審議会委員ならびに和泉市環境審議会委員としても、本市の都市計画や環境の分野にてご尽力いただいております。

最後に、西岡 渥美様でございます。西岡様は、和泉市商店連合会顧問ならびに和泉商工会議所常議員や、和泉まちなか商い塾運営委員会委員としてご活躍されており、本市の商業・業務活動の活性化に向けご尽力いただいております。

以上、ご紹介させて頂きました3名の方々に、和泉市都市再生整備計画事業評価委員会委員としてご審議いただきたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。都市デザイン部都市政策監の松林でございます。都市デザイン部再開発担当次長の坂口でございます。再開発課長の矢倉でございます。道路河川室参事の高嶋でございます。同じく道路河川室参事近藤でございます。以上で紹介を終わらせていただきます。

続きまして、会議次第によりまして、委員長・副委員長を選出したいと思っております。委員長の選出につきましては、和泉市公共事業評価委員会規則第2条から第4条の規定により、委員の互選により定めるものとなっておりますが、選出について、ご意見、ご提案ございませんでしょうか。

(西岡委員)

学識経験者である内田委員等に委員長をお願いできないでしょうか。

(司会者)

只今、西岡委員からご提案がございましたが、他にご意見、ご提案等ございませんでしょうか。

無いようでございますので、西岡委員のご提案のとおり委員長には内田委員、副委員長には藤田委員を選出させて頂いてよろしいでしょうか。

(西岡委員)

それをお願いします。

(司会者)

ご異議がないようですので、委員長につきましては、内田委員、副委員長については藤田委員をお願いいたします。

それでは、内田委員長より、一言ご挨拶をいただきます。

(内田委員長)

どうも僭越ながらご指名いただきまして有難うございます。

事業評価ということで、ここ10年くらいですかね。どこでもかしこでも評価、評価と言われておりまして、それらの経験、評価を受ける側、それから評価をさせて頂く側に立

ったときいつも思うのですが、だんだん制度が動いていくと、かたちに流れるきらいがある、ということがあります。しかし本来、評価の目的というのはこの辺の参考資料にもありますが、中身をちゃんと関係者が理解する。そして住民にも理解してもらえるようにする。ということが重要でありまして、本当の目的はよりよいものにするためにみんなで知恵を出し合ひましょう。ということだと思っております。

ですからこの場もあまり重箱の隅をつつくような話、それも重要なところもありますが、真実は細部にやどるわけですから、ないがしろにははいけませんけれども、出来る限り今後へ向けて、なおかつ財政事情も厳しいなか、市長様の大英断で5%減税なされたわけですから、効率的な公金の利用等、透明性を確保しながらも、なんとか知恵を絞っていくというような方向で、少しでも貢献できればと思っております。よろしくお願ひいたします。

(司会者)

ありがとうございます。それでは、本委員会で見解を伺うに際しまして、市長より諮問させていただきます。

【市長より諮問】

ありがとうございます。それでは、諮問事項に入りたいと思います。なお、辻市長につきましては、この後の公務の都合により、ここで退席させていただきますことをご了承いただきますよう、よろしくお願ひ致します。

【市長退席】

これからの進行につきましては内田委員長にお願ひしたいと思います。内田委員長よろしくお願ひします。

(内田委員長)

よろしくお願ひします。先ほど申し上げたように、チェックの部分については簡潔にお願ひします。先ほど市長から諮問していただきましたけれども、みなさんのお手元にある次第、この順番に従ってまず事務局の方から説明いただいてその後、委員の方から意見を頂きたいと思っております。

では、まず諮問事項(1)事後評価の方法及び都市再生整備計画の目標達成状況の確認等の結果についてお願ひします。

(事務局 大内)

はい。再開発課の大内でございます。どうぞよろしくお願ひ致します。失礼して座って説明させていただきます。

まず配布資料を確認させていただきたいと思っておりますが、本日の諮問事項にかかります資料は、こちらの都市再生整備計画事後評価シート、3枚のホッチキス止めしたものでございます。また参考資料としまして、委員のみなさまには別冊で都市再生整備計画第5回変更、都市再生整備計画事業事後評価方法書、社会資本整備総合交付金交付要綱の3つを配布させていただいております。なお、本来であれば本日審議いただく前に事業地区の現地

視察を行っていただくところでございますが、本地区の現況につきましては委員の皆様方よくご存知だということもございますので、本日は割愛させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、諮問事項（１）事後評価の方法及び都市再生整備計画の目標達成状況の確認等の結果についてご説明いたします。

私からは、まず、事業評価の方法及び計画目標の達成状況等についての説明の前に、本地区で実施しております事業内容等について、簡単にご説明させていただきます。

お手元資料、こちらの都市再生整備計画事後評価シートの３枚目、様式 2-2「地区の概要」または前方スクリーン、同じものでございますのでご覧いただきたいと思います。

図が細かくて申し訳ございませんが、まず、事業の区域としましては、JR 阪和線と泉府中駅を中心に赤い太線で囲っているところが区域でございます。南は国道 480 号、東は府道大阪和泉泉南線、北は和泉市中央商店街や府中駅の北一番踏切りまで、西は国道 480 号のスギ薬局までの範囲となっております。区域面積は約 14.8ha でございます。

次に、この地区における事業実施前の課題でございますが、一つは、駅周辺におきまして、工場跡地や木造家屋等の老朽化した建物が密集し、防災面から非常に危険な状態にあったこと、また、駅前広場や駅周辺道路が十分に整備されておらず、駅前や踏切前において自動車、自転車、歩行者等が混在し、交通安全上からも危険な状態にあったこと、それから、本市の中心市街地としての商業・業務機能の低下といったことが課題となってございました。これらの課題をクリアするために、お手元資料の左上の「まちづくりの目標」欄に記載がありますように、「災害に強く安全で快適な和泉市の玄関としてふさわしい地区へと再構築を図る」ということを目標としまして、平成 20 年 3 月に都市再生整備計画を策定し、平成 20 年度から 24 年度の 5 ヶ年におきまして、様々な事業を実施しているものでございます。

お手元資料で、黄色で着色しております基幹事業、それから、青色で着色しております提案事業が本交付金事業で実施している事業でございます。

基幹事業とは、本交付金事業の要綱で定められている事業で、道路、下水、河川、公園、再開発といったまちづくりの基幹となる事業でございます。また、提案事業とは、市町村の提案に基づく地域の創意工夫を活かした事業となっております。それでは、各事業を簡単に説明させていただきます。

まず、黄色で着色しております基幹事業としまして、上から順に高次都市施設の自由通路ですが、これは JR 和泉府中駅舎の橋上化工事とあわせて、駅東西を結ぶ自由通路を整備するもので、平成 23 年度に工事着手し、来年の 5 月末完成を予定しているものでございます。事業費につきましては、設計費を含めまして、約 6.4 億円でございます。

次に下水道事業及び道路事業の和泉府中駅西線ですが、これらは和泉府中駅の西側における幅員 12m の道路と駅前広場の整備、及びそれに係る下水道整備を行うものでございます。事業費としましては、用地補償費、設計費、文化財調査費を含めまして、約 5 億円です。

ございます。

次に、市街地再開発事業の共同施設整備等ですが、これは、右に写真を載せておりますが、再開発事業で整備しました再開発ビルの建築工事費のうち、給水施設や排水施設、電気室、機械室、共用通行部分など、いわゆる共同施設といわれる部分の整備費が交付対象となっているものでございます。事業費としましては、約 18.8 億円でございます。

次に、道路事業の区画道路ですが、これも右に写真を載せておりますが、再開発ビルの南側道路及び大阪和泉泉南線の拡幅整備を行ったもので、事業費としましては、一部の用地補償費を含めまして約 1.2 億円でございます。

次に、地域生活基盤施設の公共駐車場ですが、これは先ほど説明いたしました再開発ビルの駐車場棟の公共駐車場 214 台分の床を購入する費用が交付対象となっているもので、交付対象事業費としましては、約 1.4 億円でございます。

次に、青色で着色しております提案事業でございますが、一つは図書館の整備としまして、先ほどの公共駐車場と同じく、再開発ビルに整備しました市立図書館の床の購入費が交付対象となっているもので、事業費としましては、約 6.8 億円でございます。

次に、共同施設整備ですが、これは先ほど説明いたしました基幹事業での共同施設整備と同様のものがございます。

最後に、駅舎橋上化及び太陽光発電ですが、これは駅舎の橋上化工事におけるエレベーターやエスカレーター及び自由通路の太陽光パネルを整備するもので、事業費としましては、約 1.4 億円でございます。

以上が本交付金事業で実施しております事業で、全体の事業費が約 45 億円、うち国からの交付金が約 42%で約 19 億円となっております。

なお、ただいま説明いたしました各事業の事業費につきましては、参考資料 1 の都市再生整備計画の 4 ページに事業の一覧表が掲載されておりますので、ご参照いただければと思います。

ただいま説明いたしました事業を先程のまちづくりの目標を達成するために実施しておりますので、この目標がどのくらい達成されているかを把握するために、本地区では、4 つの具体的な指標を設けております。資料の右上をご覧ください。

一つは「図書館の貸出人数」、次に「JR 和泉府中駅の乗降客数」、次に「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる市民の割合」、それから「不燃領域率」の 4 つでございまして、それぞれ従前値、目標値、評価値を記載してございます。

それでは、これらの 4 つの指標がどのくらい達成されているのか、また事業を実施したことによって、どのような効果が生まれたのかなど、評価結果のまとめについて、引き続き説明させていただきます。よろしく申し上げます。

(事務局 田山)

再開発課の田山でございます。失礼して座って説明させていただきます。

私の方からは、スクリーンを使って説明させていただきますので、前方をご覧ください。

まず事後評価のスケジュールについて簡単にご説明させていただきます。

まず、事後評価方法書の作成というところですが、これは皆様お手元の参考資料2にあります。これが事後評価方法書と言いまして、こういった手法で評価を行うかを記した計画書になります。

続きまして、成果の評価と、効果発現要因の整理というところで、これは先ほどの方法書に基づいて実際に評価を行いました。庁内で7月に集まり、検討も行いました。

続きまして、今後のまちづくりの方策というところですが、これは今回の事業の評価に基づき、これをどうまちづくりに活かすか、また2期計画をどのようなものにするかを庁内で9月、10月と2回関係課を集め討論いたしました。

続きまして、事後評価原案の公表というところですが、これは皆様先ほどご覧になっていました、この事後評価シートですね。この事後評価シートを市のホームページや再開発課の窓口での縦覧を10月5日の金曜日から10月19日の金曜日、2週間公開していました。その結果住民の意見はございませんでした。そして本日の評価委員会の審議を経まして、本地区では、2期計画を計画していますので、それを年度内までに完成させたいと思っております。

次は国への報告、評価結果の公表というところで、先ほどの事後評価の原案を本委員会の審議を経まして、内容を修正いたしまして、その結果を来年の3月から1年間再度公開、公表させていただきます。

最後にフォローアップの実施ということで、本地区は2期計画を考えていますので、2期計画終了後に再度フォローアップの実施というところで考えております。

そして今回の事後評価や、評価の流れ、手順などにつきましては、お手元の参考資料3の社会資本整備総合交付金交付要綱この各種要綱に基づいて評価等をさせていただいております。またご参照お願いします。

続きまして、指標についてご説明させていただきます。引き続きスクリーンの方お願いします。

まず、目標1と目標2を掲げております。「都市機能の更新を図り、災害に強い住まいとまちづくりを進める」というのが目標1になっております。

目標2というのが、「商業業務活動に新たな活力をもたらし、地域の交流活動を促進するまちづくりを進める」というようなかたちで、目標1と目標2というのを掲げております。指標1の「図書館の貸出人数」というのは、目標2についての達成状況を示す指標として掲げております。

指標2の「JR和泉府中駅の乗降客数」というのも、目標2の達成状況を示す指標として掲げております。

指標3の「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる市民の割合」これはそれぞれ目標1と目標2の達成状況を示す指標として掲げております。

指標4の「不燃領域率」これは目標1の達成状況を示す指標として掲げております。

続きまして、指標の達成状況につきましてご説明させていただきます。引き続き前方のスクリーンお願いいたします。

まず、評価の仕方なのですが、○、×、△というようなかたちで評価しております。○というのが、評価値が目標値を上回った場合○ということにしております。

△というのが、評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合、△にしております。

今回×は無かったのですが、×というのが、評価値が目標値には達していません、かつ近年の状況よりも改善が見られていない場合×というようにしています。

それでは一つずつ指標について見ていきます。

まず「図書館の貸出人数」についてですが、基準年度は18年度で77,144人を従前値としてあげております。目標値としては平成24年度で、179,544人。平成23年度の評価値として計測した数値が154,015人と、従前値と比べて約2倍程度増加しております。ただ、目標値には達していないので、評価の方は△とさせていただきます。これについてもう少し詳しく内容を見ていきます。

このグラフは過去からの貸出人数と貸出点数をグラフにしております。青が貸出人数で、今回の指標になっております。参考に紫が貸出点数を表していますが、貸出点数も大幅に増加しております。この年度に和泉図書館がフチュール和泉に移転したということが影響していると思われまます。

こちらが移転前の図書館になっていまして、和泉府中の駅から山手方向に向かっておよそ徒歩で15分から20分ほどかかるところにございました。駅前に移転してからは、学校帰りや、仕事帰りなど気軽に立ち寄れるようになったということと、他市の人もこの立地条件なら利用しやすくなったというのが大きいと思われまます。

これが今回の計画の箇所図ですが、ここが今フチュール和泉の図書館が入っているところで、まだ繋がっていないのですが、今後この歩行者デッキが接続して繋がることによって今後ますますの増加が見込まれると思っております。

ハード面の整備以外に、ここの青色のところをご覧ください。月曜日休刊の廃止、年間の開館日数が280日から340日になりました。また、開館時間の延長ということで、平日は10時から21時、土、日、祝日が9時から20時で以前に比べ延長しております。そして旧図書館で貸出の無かったジャンルの貸出開始、HPをリニューアルし、Web環境の充実。自動貸出機の導入、自習室の設置などハード、ソフト両面から整備を行ったことによって効果が現れたと思っております。ただ、目標値が高いので今回目標達成△にしているのですが、図書館関係でその他の指標ということで、「図書館のイベント参加人数」を今回事後評価するにあたって、新しく指標として設定させていただきました。これは指標1を補完するために設定しております。

平成21年度の行事内容は、こういった内容の行事を行っており、トータルで878名の参加者がいまして、平成23年度には1148名と約3割程度増加しております。

単純に回数を増やしたということもありますが、利便性が向上して以前よりも足を運びやすくなったというのが大きな要因だと考えられます。

続きまして指標2の「JR 和泉府中駅の乗降客数」について見ていきます。これは従前値が30,000人、目標値を31,400人と設定しております。評価値としましては、平成23年度31,900人ということで、評価の方は○ということにしております。もう少しこの内容を見ていきます。こちらのグラフが、過去からの乗降客数の推移を表しております。こちらの黄色のグラフが、和泉市の人口の推移を表しております。従前値がここの数値であったのが、目標値がここで、評価値も大幅に増加しております。人口増加もそうなのですが、駅前にフューラル和泉がオープンしたことによって、和泉府中駅を利用する人が増加したということも考えられます。

続きまして指標3の説明をさせていただきます。「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる割合」ということで、平成18年度従前値の方が14.4%であったのが、目標値として平成24年度35%の目標をかかげています。今回平成23年度の数値を計測してみると、22.4%と目標値には達していませんでしたが、近年の傾向よりは改善していますので、評価の方は△ということにしております。

これは市が毎年「第4次和泉市総合計画」の目標管理のためにアンケート調査を行っており、その数値を使っております。どのような人が対象となっているかといいますと、市内に居住している18歳以上の男女3000人に対して郵送で行っています。今回平成23年の12月6日～平成24年1月13日の間に行われ、回答件数が1112件ということで、調査を行いその結果、『和泉府中駅周辺が利用しやすくなりましたか?』という問いに対して、『非常にそう感じる』というのが1.9%、『どちらかといえばそう感じる』というのが20.5%、この2つを足した数字を今回の評価値として、評価しております。

工事中ですのでやむを得ない面もありますが、今後二期事業も含めて、駅周辺の整備が全て終われば住民の満足度も上がるはずなので、期待したいというところでございます。

最後の指標、「不燃領域率」についてご説明させていただきます。この従前値は38.8%で、目標値を41.9%というのを目標にかかげ、評価値の方が平成23年度49.8%ということで、目標値をクリアしているので、評価を○ということにしております。

これについて少し詳しく見ていきます。まず不燃領域率とは、一言で言いますとまちの燃えにくさを示す指標のことです。地域内において道路や公園などのオープンスペースや燃えにくい建物が占める割合ということで、このような算定式がございます。

まず(F)というのが不燃領域率、(MS)というのが短辺もしくは直径が15m且つ250㎡以上の水面・公園・運動場・学校・生産緑地・一団地などの施設の面積、(LS)というのが幅員6m以上の道路の面積、(RS)というのが耐火建築物の建築面積+準耐火建築物の建築面積の8掛け、(S)というのが全建物の建築面積、(T)というのがブロック面積です。

ここの赤色で囲っているところが本計画、都市再生整備計画の事業エリア14.8haで、こ

の青色で囲っているところが、不燃領域率の今回の算出エリアになっております。このエリアは大阪府が指定する「災害に強いすまいとまちづくり促進区域」に該当し、この区域が本計画内にあるため、この5haで算出しております。

以上で指標1～4の説明を終わりたいのですが、最後に今回の目標値の算出の根拠について簡単にご説明させていただきます。

まず、「図書館の貸出人数」については、当初数値を計測した地点から平成24年度まで年間平均登録者数が4000人あると推定し、その登録者が年に5.5回図書館を利用する前提として計算しております。

「JR和泉府中駅の乗降客数」については、周辺人口の増加人数を予測しまして、増加した人数の5人に一人が駅を利用する前提のもと計算しております。

「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる割合」の目標値については、第4次和泉市総合計画の中で、平成27年度までを後期の基本計画として定めておりますので、それまでに50%と、半数の人が満足しているというのを目標にかかげ、そこから24年の数字を逆算して出しております。

「不燃領域率」については、大阪府が定めた「災害に強いすまいとまちづくり推進要綱」で平成37年までに50%の目標値を定めております。そこから逆算して平成24年度の目標値を定めております。

最後にもう一つフォローアップについてご説明させていただきます。今回4つの指標のうち2つが目標達成で○、2つが目標未達成ですが近年の傾向よりは改善していますので△とする評価値を出しています。本来は24年度の数値を出して確定値にしたいのですが、どの数値も年度途中ですので算出することが出来ません。ただ「不燃領域率」についてはこれ以上数値に変更はないのでこの数値で確定値にしております。「不燃領域率」を除いた残りの3つの指標と、今回新たに設定した指標の「図書館イベント参加人数」を合わせた4つの指標を2期事業終了後にフォローアップで、再度数値を計測する予定です。

以上で諮問事項1の事後評価の方法及び都市再生整備計画の目標の達成状況の確認等の結果についての説明を終わらせていただきます。

(内田委員長)

手元の資料で言うと、様式2-1で評価結果のまとめとありますが、この中身について適切であるかどうかということをお話していきたいと思っております。では西岡委員から、感想をお願いします。

(西岡委員)

丁寧に説明していただきましたけれども、「図書館の貸出人数」については、その数値を基礎に算定しているものか？旧の図書館は非常に離れたところにあったと思うのですが、こっちに移り、物理的に交通の便利がよくなり、認知度も高い場所にきたので、これはあまり評価できないのではないかと思います。

それとこの4つの評価には入ってなく、地域の活性化をどうするかというような協議

会を立ち上げてもらっていますので、そこで協議していくことですが、再開発というものはもちろん現場の成立、震災に強いまち、また近い将来 20 万都市にふさわしい和泉市の玄関として振興していただいてもらいたいのですが、私たち商店街において商店が、なかなか実数が見えてきません。

まちというのは、特にこれから高齢化社会になるので、コンパクトなまちに。いわゆる郊外の大型店のようなものより、近くで買い物ができるような商店を増やすなど、少子高齢化に伴った政策を練ってもらって、高齢化社会に対応できたらと思っています。

(事務局 坂口)

今西岡委員のお言葉いただきまして、今回再開発事業としてフューチャー和泉は完成したところでございますが、公共施設等が事業としてはまだ残っています。その中で地元の既存の商店街ロードイン方面につきましては、駅を中心にデッキで繋げることによって人の動線を確認し、ロードイン方面に行けるようにさせていただきます。ただ商店街自身も活性化を図れるように動いてもらわないと、やはり行政だけでは難しいのかなと思います。行政にできる範囲としては、人が回遊できるようにさせていただきます。

(西岡委員)

駅前広場が完成して、駅舎が完成したらどのような動きになるかどうかですね。要するにロードイン側にもエスカレーターをつけてもらうと流れが変わる可能性もありますね。

(事務局 坂口)

バスバースも 4 台ほど駅前に配置していますので、今まで 480 号の方面へ行っていたのが駅前になれば、バスが来るまで買い物でもしようかというような考えも起きてくるのかなとは思っています。

(内田委員長)

重要な話なので、これは後ほど諮問事項の 2 に関わるような形でまた続きを話合うということで。まず、一つ目ご指摘いただいた指標 1 の「図書館の貸出人数」ですが、これは指標として設定していたのですけれども、この評価が適切かどうか。この様式 2-1 で言うと真ん中のところに指標があって「効果発現要因（総合所見）」と書いてありますが、このあたりの書きっぷりをどうするかということについて。

場所が不便なところから駅前に移転して、増えて当然だと思われるので、この程度で止まっているはどうなのかと思われます。この総合所見について、役所の中で色々と議論されたと思うのですが。

(事務局 坂口)

図書館につきましては、当初の計画から再開発の中に移転するという計画の下で、ビルの設計も行ってきただけで、公共施設として図書館が入ることに対しての指標をあげさせていただきます。確かに駅から遠いと、利用人数も駅前に移転してからとでは雲泥の差が出てくるのではないのかなと思うのですが。

(西岡委員)

図書館というものはもともと評価とかではなく、20万都市になるということで、美術館など文化的な要素ですよね。これを数値で評価していいものかどうか。

(内田委員長)

今の点に関して、どうでしょうか。

(藤田副委員長)

今日は中身を理解するという、より良い方向を探るということ、これが私たちに課せられた大きな責任でございますので、その2点について私なりに考えた意見を申し上げますと、このご説明の中でどうしてこういうことになったのかということは、十分わかりました。あと、より良い方向を探るということにつきましては、それぞれに色々と課題があると思います。

一つ目の図書館ということにつきましては、先ほどのご説明ですとハードとソフト両面から図書館の利用率が上がったと報告がありましたが、もちろんそのピッチの問題もそうなのですが、再開発の中でどれだけ図書館の貸出人数が増えたのかということ、定量化しようということなのですが、例えば開館時間が長くなるとか、開館日数が増えるとかいうことについて、図書館自体のありかたも変わっているというのがどのくらい寄与しているのかというところが、一つ疑問点としてあります。後は算定の根拠というものが、仮にその図書館の貸出人数について文化的なあるいは、まちづくりとして和泉市が改善しているとして見るのであれば、そもそもの目標値の設定というのが、登録者数が増えること、その人たちが平均的に何回借りるのかということ、人数割り出されているのですが、そのあたりの目標値の設定というところに無理があったのかなという気がいたします。

というのは駅に近くなると、登録する人が増え、登録する人が必ず借りるという前提で行っておりますので、そのあたりの目標値の設定を今後どのようにするのかというような課題があるのかな。ということと先ほど西岡委員がおっしゃった文化的なレベルを数値化して評価していいのかというような疑問については、伺っていて確かに評価、評価の時代で、文化レベルをどう測るかというのはこの評価以外にもいろいろな場所でいろいろな議論があるわけですが、仮に定量化できるとするならば、定量化できる数値設定をどのように考えていったらいいかはよりよい方向を検討していく意味では考える余地があると思います。

単純に数字だけ見ると、77,000人利用していた人が、150,000人に倍増しているにもかかわらず、目標値と離れているため△になっているのは個人的にはどうなのかなという気はいたします。たとえ目標値から遠かったとしても、数年で倍増していて、貸出点数の面でも飛躍的に伸びているとなれば、もちろんその中身の充実ということを外しては議論できないと思うのですが、これを指標にするのであればもう少し積極的な評価もできるのではないかなと。ただこれにつきましては、多年齢の人の利用率が上がったということで、補足的にされている「イベント参加人数」を見ると、立地が良い、内容が良いなどということ、伸びていると考えるとすれば、これは適切なのかどうかということについて検

討の余地があるのですが、再開発計画の中でまちづくりの目標とした地域の文化レベルを上げるための条件整備というのは一定進んだのではないかなと考えました。

(内田委員長)

指標というのをどういったものとして位置づけるというのは、パワーポイントの方では、目標1と目標2の関連を示していましたが、ここにある指標というのは個別の施設というよりはエリア全体、この事業全体として見たいが、そのことを定量化するのは難しいので何か代表的なもので見てみましょう。ということだと思います。ですから図書館が文化施設としてどうかということをお願いするための指標ではないということですね。

図書館のサービス内容が良くなり、図書館がきれいになったのだから増えて当然ですよということ議論するための数値ではないと思います。

ではどのようなものかということ、結局はこのエリアに人が多く来るようになったかということを表す指標になるのではないかと思います。活力あるまちづくりという意味では周辺の商店の売上げがどうなったか等の方が適切だと思いますが、なぜ図書館に注目したのかということはあると思いますが、この段階で新しい指標を出しても、事業の途中ということもありますので、期待している効果は調べても当然出てこないのですよね。ですから24年度の目標の数値が達成されている方がまちづくりという観点から見てそもそもおかしいと思うのです。「不燃領域率」についてはハード整備なのである程度達成出来ていてもおかしくないのですが、活力とか魅力とか今のこの不便な状況で和泉府中駅周辺が利用しやすいというのは、そもそもあまり考えられないのであって・・・

所見のところであまり否定的な事ばかり書くのはどうかなというところがあります。

(藤田副委員長)

今後の課題ということで見れば、委員長のおっしゃったように人が集まる空間がどの程度できてきたのかということの評価項目にするのであれば、貸出人数というよりは来館者数というのが把握できるのであれば、こちらの方で見た方がよいのではないかと。

(事務局 中野)

この平成18年の最初の指標を作るときには、来館者数をカウントする機械を設置しておりませんでしたので、あくまでも貸出に來られて図書館カードを出された方の人数を指標ということにさせていただいております。

駅前に移転してからは来館者数を把握できるようにしておりますので、今後は人数が増えてきたかということについてわかるようになります。

(藤田副委員長)

図書館を核として人が集うということがポイントになると思いますので、例えばお母さんが本を借りにきて子供を連れて来るということであれば、2人なり3人来ているということになりますし、逆にお子さんが本を借りたい、またイベントに参加したいということで、家族で来られるというような、図書館を核にして人が集うことについては、この事業としての評価には合ってくるのではないかなという気がいたします。

物理的に比較対象の従前値のときに把握できなかったというご説明ですので、次期以降はそういったこともご検討いただいた方が、より現実に近い評価ができるのではないかと考えております。

(西岡委員)

正確な数値でなくてもアバウトなら当時の来館者数は出るのではないかと？

(内田委員長)

昔に遡っての数値はなかなか難しいと思います。

フューチャーに移転してからは来館者のデータがあるということですよ。

(事務局 中野)

はい。23年度からはございます。

(内田委員長)

今まだ事業途中なので、フォローアップの時にはそういった指標を追加して用いるというようなことを、この「効果発現要因」のところの最後に付け加えておいてはいかがでしょうか。

(藤田副委員長)

「総合所見」ということはあくまで指標についての所見なので、書き込むことが限定的だと思うのですが、もし図書館を核として人の賑わいがどれくらいできてきたのかということを見るのであれば、今回出てきた貸出点数や来館者数というところで今後は見ていきます。というような前向きな所見を入れるところがあってもいいのではないかなと思います。

(内田委員長)

書けるところは1番最後の所だと思います。人が集まってきているのを直接反映できる指標として来館者数を追加してフォローアップの際に評価するということを検討してみてもいかがですか。

(事務局 田山)

はい。

(藤田副委員長)

この事業の中で目標の「地域の文化を促進する」ということができる公共施設というのは、今のところ図書館しかないということについて間違いはございませんので、図書館に来るということで色々な図書館にある本や映像資料に親しむということが長期的に見ると、地域の文化レベルを上げるということが考えられると思うので、そのあたりをいずれ市民の皆様にご公表した時にご理解いただけるのかということについて工夫が必要かと思っております。

(内田委員長)

指標1以外で何かありますか？

(藤田副委員長)

気になった事をお伝えしますと、大前提としてまだ工事が終わっていませんので、今回の評価にどのようなかたちで説明できるのかという大きな課題はあると思います。

それとは別に例えば指標2ですと、乗降客数が増えたということについてなんら疑問は無いのですが、この間ダイヤなどがJRの方でどのように変更したのかということのを考慮しなくていいのかということをおもいます。

(内田委員長)

同感です。これも先ほどの図書館の話と一緒に本来であれば、この近辺において人の流動を見たいのですが、それに相当するものがカウントされていないので・・・ということに過ぎないですね。

(藤田副委員長)

一般的に増えたということはわかるのですが、もう少し細かく説明するのであればダイヤの改正など、寄与率などを使ってどのくらい変化要因があつて、その変化についてどのくらい変動したのかということを見ていきたいと考えれば、賑わいの度合いが上がつたということであれば乗降客数でわかります。

これも図書館と同じ話でこの地域の開発全体からして、人がどれくらい集まってきたのかというような指標はやはり駅やバスの乗降客数や商店の来店数というのが欲しいところなわけですけれども、形態が従前と今とは違いますので、どうやって比較してどうやって数を数えてという課題がありますから、全体的な傾向をみるということについては乗降客数を見るということについて妥当なのではないかと思ひます。ただこの数値自体が単に開発が進んだので、増えましたということではないということをお私共共通の理解として持つておかないと判断を見誤つてしまうのではないかという懸念があります。

(内田委員長)

「効果発現要因」の文章の変更が必要かなと思ひます。

事業担当されている方が書きたい気持ちは分るのですが、駅前にこれが出来たことによつて人が増加したとは思えないのですよね。

(西岡委員)

和泉市に4つのエリアがありますよね。信太山、北信太、和泉府中、和泉中央。この4つの駅の動向について全体的にJRについても乗降客は減つていふ思うのですが。

(内田委員長)

全体として、JRは快速が止まる和泉府中のような駅は増えています。

(藤田副委員長)

マンションに住まれている方が増えていますから、その何割かの方が利用するとするのであれば、やはりこの計画において利用者が増えたといふのは言えると思ひます。

(内田委員長)

駅前に何かが出来たから利用者が増えたといふのは、この期間内で言ふのはおかしいですよ。

(事務局 田山)

信太山や北信太などの駅の乗降客数の表はパワーポイントではないのですが、参考に、泉北の光明池と和泉中央の駅の表はありますので前方をご覧ください。光明池駅は年々下がってきていますが、和泉中央駅はトリヴェールの開発もありまして年々増えてきています。和泉府中駅も23年度で伸びてきているのですが、信太山駅については横ばいか、減少傾向です。なお北信太駅についてはほぼ右肩下がりの状態です。その中で和泉府中駅は増加してきているというような状況です。

(西岡委員)

JRで和泉市内の駅の乗降客数が減ってきている現状で、和泉府中駅が増加しているのは効果があったということですね。

(内田委員長)

23年度はJRがダイヤを抜本的に変えたので、各停しか止まらないところは減って当然なのです。逆に快速が止まる和泉府中駅に人が集まるのも自然の流れになります。

もっと大阪に近いところになってきますと、民鉄とJRが客を取り合っているというようなことになっています。ただベースとしては人口が増えているというところで、新規住民の方はマンションに住んでおられる方が多いですよ？

(事務局 坂口)

そうですね。

(内田委員長)

そうなってくるとやはり鉄道利用者が増えてくるということですね。

(事務局 坂口)

人口増の要因はやはりトリヴェールの開発で住宅が建ってきているのが1番の要因かなと考えています。和泉府中近辺は再開発に伴って民間のマンション経営も増えてきていますので、それも増の要因なのではないかと思います。

(内田委員長)

住民が増えているのが1番の要因なわけで、その他にもダイヤの変更などもあって、乗降客数は確実に増えてきているということですね。フューチャーが完成して利用者が増えたというのは書きすぎだと思います。もう少しマイルドな表現に変えた方がいいと思います。今後見込まれるのは確かにそうのできちんとフォローアップを行ってください。

周辺の人々の流動を見るのは口で言うのは簡単ですが、実際データをとるのは困難ですよ。

(藤田副委員長)

過去に遡ることは不可能ですので、2つ目の諮問の内容とも関わってきますが、こういった計画自体の効果を検証する際には、今後どういうふうに定量化できるデータを使い、こういった指標を使う可能性があるのかというのは議論しておいた方がいいと思います。

(西岡委員)

商業についても売り上げというのは把握しにくいのですが、通行量調査というのは何年かに1回行っています。

(内田委員長)

橋上駅化した後ですね、JRと話をすれば自由通路があるわけですから自由通路の通行者数は把握することはできると思うのですが。もしくは商店街の中の通行量の調査等。

他に何かあればお願いします。

(藤田副委員長)

指標3は工事が完成していないので、アンケート調査によるよくなったと感じることについて、次の時には精査された方がよいのではないかと思います。

(内田委員長)

これはまず設問が「よくなった」と聞いているのですか？「なった」というのと、使いやすという現状の評価をするとではずいぶんニュアンスが違うように思いますが。どのように訊いているのですか？

(事務局 坂口)

これはさっき説明ありましたようにアンケート調査の調査用紙には「感じますか？」というふうに聞いています。

(内田委員長)

そういうことでしたら「和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じる割合」と書くべきだと思います。

(藤田副委員長)

アンケートのシートを見てみないとなかなか難しいところもあるのですが、例えばこのアンケートの項目が和泉府中と和泉中央など、対象比較型であればそうだろうなというところなのですが、この指標だけ見て工事も終わっていないのに「利用しやすくなったと感じる」という人が多いのはどうしてかと思うわけで、これは総合計画の中でのアンケートということで、質問項目が多岐にわたっているのだと思いますが、データの取り方と取るデータの中身がどのような形で聞かれているのかというところと、最終終わった段階でこれがどうなっているのかというところを本来は評価したいのですがそれが出来ず、途中で評価しないといけないという事情をきっちり所見のところの説明されていた方がよいのではないかと思います。

(内田委員長)

所見になかなかそこまで書き込めないと思うのですが、参考資料2の方法書にはきちんと書いてあると思うのですが、参考資料2の4ページのところが指標3のところにして、総合計画の市民アンケート調査がかつて行われていたと。そのときに答えてくれたのを活用していて、これは17年度に実施していますね。⑥の24年4月時点について総合計画のものを用いて「和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じますか」ということに対する答えですね。

(事務局 田山)

はい。

(内田委員長)

文脈次第ですけど、ポンと「和泉府中駅周辺が利用しやすいですか」と聞かれても何と答えて良いかわからないでしょうし、同じような文脈でかつてと今が一緒だったらともかく、違ったらまた答えが違って当然ですよ。

(藤田副委員長)

利用しやすいというのは人それぞれ考えがあると思います。快速が停まるようになり、駅が利用しやすくなったからとか、バスの本数が増えた等、計画自体が部分的であっても評価は上がってくるということも有り得ます。どのように所見で書かれるのかというところは慎重に検討された方がいいと思います。

(内田委員長)

指標3の名称を変えることは可能ですか？「利用しやすくなった」ではないのですよね。本当に知りたいことも。「利用しやすいと感じる」人の割合を事前と事後を比べるものであって、ここの変更は可能ですか？

(事務局 田山)

整備計画にも載せている指標ですので…。ただ、内田委員長のご指摘どおり指標3の名称とアンケートの質問の文章としてはニュアンスが変わってしまいます。

(内田委員長)

指標3の名称が変更できないなら、「総合所見」で文章を変えないといけませんね。利用しやすいと感じる人の割合についての数値を見た。ということを書いて、目標に比べると足りていないが、少しは上がっていると。その要因としては利便性の向上等も考えられる。ただ事業の途中なので今後工事の完成に伴って数値の増加は期待できるのでフォローアップのところで見ていく。というふうにしてはどうですか。

(事務局 田山)

わかりました。

(藤田副委員長)

指標4について、物理的に造ったかどうかということで、自動的に割り出されるものなので、次のフォローアップに取り上げないということは理解できるのですが、「災害に強いまいつくり」ということで、この事業がどうだったのかということを検討する項目が無いままフォローアップするのかどうかということがとても気になります。

(内田委員長)

不燃領域率というものは事業に関わりの無い、実際その土地にどんなものが建っているかによって変わってきますよね。

(事務局 田山)

はい。

(内田委員長)

直接事業には関わりはないけれども、民間事業で建替えが行われればどんどん数値は上がるわけですよね。だからこそ平成 37 年度に 50% 目標としていながら 24 年度は 41.9% という低い目標にしているのですよね。そういうことでしたら今後も見えていかないとおかしいですよね。

(藤田副委員長)

この不燃領域率というのを継続するののかという議論と、継続しないのであれば何をもってこの地域の大目標を終わらせるのか。これに変わる定量的に示すような指標があれば、バランスがとれると思いますが。

(内田委員長)

他にはないと思います。不燃領域率を出すのは大変ですか？そんなにたいした話ではないですよね。

(事務局 坂口)

不燃領域率については今回ピリオド付けましたが、継続ということで。

(内田委員長)

フォローアップについては他と同じく平成 28 年 6 月に継続ということですね。

(事務局 田山)

はい。

(藤田副委員長)

シートが決まっているので、変える余地はないと思うのですが、達成されていなかったところで「1 年以内の達成見込み」の項目のところに「なし」と記入しているのですが、やらないというわけではなくて、出来ないという部分もあると思うのですが、シートで「なし」と書いていると、出来てないのにやらないのか。というような疑問が生じないだろうかというか、1 年では工事が終わらないので継続して目標をもって行うが、1 年では目標はクリアできないということだと思います。

(内田委員長)

事前の打合せでも聞いていますが、この様式は国の定めたものを引っ張ってきていますよね。ただ、今はその必要性はないのですよね。

(事務局 田山)

はい。今は任意になっています。

(内田委員長)

形式に偏っていると思うのですよ。評価する側やお金払う側として見たいのはやる気が無いのか、できる可能性が無いのか、いつごろできそうなのか、頑張るのか、というところを知りたいですよね。こここのところは目標の達成時期を入れるほうがより実りあるシートになると思います。

(藤田副委員長)

再開発事業をこれまで行ってきたなかで、最後にやる気が無いのかというような誤解が出ないようにした方がいいのではないかと思いますし、×がついているわけではなく、改善の余地ありということで、この指標が妥当かどうかということは別として、数値が目標に向かって上がっているわけですから、評価として必要なのは、いつくらいに事業全体が完成予定で、社会情勢も変わっていく中でそれを踏まえたかたちでどう評価していくかということだと思います。1年以内に工事が終わらないということについて私たちは共有していますが、これだけが一人歩きしてしまうと、どういうことなのかという疑問が出てくると思いますし、誤解も生まれるのではないかと思います。

(内田委員長)

ではこういうのはいかがでしょうか。まず、「目標達成度」についてはっきりと「平成 24 年度時点での達成度」と明記してしまう。「1年以内の達成見込み」をやめて、この欄を活かして「目標達成の見込み」として、出来ているものはいいとして出来ていないものに対しては、何年には目標が達成できる見込み。と書いていただいたほうがいいと思います。目標達成できているものについてもコメントしてほしいのが、先ほどの「不燃領域率」なのですが、平成 37 年には 50%という非常に重要な情報がここには書いていませんね。是非書いてほしいものです。

(事務局 田山)

わかりました。

(内田委員長)

「1年以内の達成見込み」は外すということについて異議ないでしょうか？

(藤田副委員長)

はい。あと、実施過程の評価のところでご検討していただきたいところが、「住民参加のプロセス」がないということについて、非常に違和感があります。

モニタリングの内容についても関わってくるのですが、評価すべき項目があがっているにもかかわらず、それをないまま残すというのがどうも・・・ご検討していただきたいですし、個人的な意見を言わせてもらおうと住民参加、住民の顔がみえないまちづくりというのは今の世の中ない話だと思いますので、やり方はいろいろ今後検討される余地はあると思います。住民というのをどういう人たちを住民ととらえるのかということによってこの質もかなりちがってくると思います。それはまさに作りあげていくものですので、今日答えが出るものでないですが、(5)については「モニタリング」と「住民参加のプロセス」の項目をあげられるのであれば、こういった形で行うのかを「なし」ではなくて、今はなくても今後どうしていくかを検討していただきたいです。

(内田委員長)

この様式自体は、中間段階で、どういったことをやってきたかということ公開するものとしていきますので、今ご指摘のところの実施内容について「なし」というのはやってこな

かったのでそれでいいと思います。ただその右側の「今後の対応方針等」については書かないといけないですね。ただそこでもうひとつ考えないといけないのは「持続的なまちづくり体制の構築」の項目のところで、まちづくり協議会が入っていますよね。住民参加ということはどう看做すかということですが、まちづくり協議会を住民参加のプロセスに位置づけることも可能だと思います。そこに生活して住んでいる人だけではなくて、商業活動やられている方も企業市民として、市民ですからね。

(藤田副委員長)

あとは、「持続的なまちづく体制の構築」で実施されていることはあるのですが、これはこれだけでよいのかという問題があると思います。計画に記載した項目を実施したということで書かれていると思うのですが、「実施内容」は都市再生整備計画に記載が無かったのでやらなくていいという説明だと思います。整備計画にあったものはきちんと見ていきましょう。ここは間違いでもなんでもなく事実の確認です。「今後の対応方針等」は計画に記載したとおり粛々とやっていくか、計画に記載している内容ではないが実施することを検討するという事なのか。そのあたりの実施状況の選択項目がまずくて、整備計画通りに評価するというのであればこれでいいと思うのですが、今後これでいくかどうか。というのはとても大切なことだと思いますし、おそらく定量化できない部分をアピールする唯一のスペースだと思います。

これから終わるまで又は終わってから、フォローアップの中でこのあたりの部分をどう活かしていくのかということについてとても重要ですので議論が必要になると思われま

(内田委員長)

今後の対応方針についてということになりますと、諮問事項2になりますので、次に移りたいと思います。それでは事務局から説明願います。

(事務局 田山)

諮問事項2のご説明させていただきます。引き続きスクリーンの方お願いします。

課題1としまして駅周辺において老朽化した建物が密集し、防災面において課題があるとあげております。現在これらを整備したことにより防災面の改善が図られたということになります。さらなる防災機能の向上のために、地域住民と連携して防災訓練等を行い防災意識の向上に努めていきます。

課題2に移ります。駅前や駅周辺道路が十分に整備されておらず、駅前や踏切前においては自動車や自転車、人が混在し交通安全上危険な状態にある。というところが、区画道路や公共駐車場等の都市基盤整備が完了し、以前に比べ周辺の利便性や快適性が改善したが、事業が未完成なので今後自由通路や和泉府中の駅西線、駅前広場などの公共施設を早く完成させ、駅利用者の安全や快適性の向上に努めていきます。

最後の課題3について中心市街地としての商業業務機能の低下ということをして上げています。フューラル和泉の完成に伴い駅周辺に人が集まるようになり、まちが活性化され商業業務機能も改善されつつありますが、今後さらなるまちの活性化ということで、既存商店

街と協力し和泉府中駅周辺地区一体となった賑わいの創出に努める。ということでまとめさせていただきました。

かけあしになりましたがこれで説明を終わらせていただきます。

(内田委員長)

今の考え方で様式2-2の1番下のところと、先ほどからの様式2-1の下の、「今後の対応方針等」についてと完全にリンクしていると思うのですがけれども、まず様式2-2の下にある「まちの課題の変化」と「今後のまちづくりの方策（改善策を含む）」の認識及び方向性についてご意見をお願いします。

(西岡委員)

さきほどのまちづくり協議会の話で、民意の中に地元の校区以外にもっと広げてもいいのではないかと思うのですが。

(内田委員長)

住民参加といっても生活者だけである必要はないのではないかと思います。商業だけに関わっていて個人として和泉市に居住していないという場合もありますよね。駅前の再開発に何らかの利害がある人、それが協議会等であってもいいだろうし、1番言いたかったのは絵に描いたような住民参加だけを住民参加と位置づけて考えなくてもよいのではないかということです。

(藤田副委員長)

こちらの文章について「まちの課題の変化」の3つ目について、建物が出来て駅周辺を利用する人が増加したというところでは一定間違いではないと思うのですが、その後の文章で「まち全体の回遊性が十分ではなく活性化には至っていない」ということは感覚ではわかっていますが、データがないので読み取れないはずではないでしょうか。

(内田委員長)

それはおそらく、見ればわかるだろう。という感じだと思います。しかしそういう訳にもいかないので、前のシート様式2-1の(4)の「定性的な効果発現状況」のところは何もかかれていないですよ。ここに書くべきだと思います。1期も未完了だし、2期もあるし、エリア全体を見て、まだ限られた場所しか出来ていないのでそういうことを書いていただければと思います。

(藤田副委員長)

「まちの課題の変化」というのはこの何年かの中に評価項目に即してどうなったかということを書く欄だと思っているのですが、「今後のまちづくりの方策（改善策を含む）」の項目はフォローアップの中でどういったところを継続して見ていくのか、もしくはこれまでの評価の中で十分に見られなかった点について、あるのか、ないのか。そこを書く欄だと思います。

「まちの課題の変化」の項目はもう一つ踏み込んで言えば、評価項目に即したまとめがあったほうがいいのかと思う反面、そういったものに縛られず、全体のまちづくりの目標

に対し今回の指標の結果からはある程度達成させたかどうかというような、書き方によってもすごく変わってくると思うのですが、最後のところはフォローアップの時に何をどこまで検討するのかということと、今回の評価の中では不十分なところをどうするのかということとをきちんと話し合っておかないとフォローアップの際に、何も言わないのにこれが出てくるのか（例えば図書館の来館者数）というような不都合が出てくると思います。

項目としては広い概念で書かれていますが、内容のところでは次期のフォローアップにむけて種をまいておいた方が次の議論の出発点の駒を進めておくというか、次の議論がしやすくなるのではないかと思います。

（内田委員長）

次に向けてということで絞っていくと、「まちの課題の変化」というよりは、達成状況をふまえた今後の進んでく方向という感じですね。そのときに必要最低限度で前に考えた指標を引用する。「今後のまちづくりの方策」については上下より左右にした方が見通しがしやすいと思います。

事務局との事前打合せでは、今日で答えに至ればいいね。と話していましたが、少し無理なので・・・

（藤田副委員長）

内容を変えるのではなく、書き方を工夫する方向で検討するということで。

（内田委員長）

上下を左右に変えて対応関係を見られるようにすることと、前のシートでここまでできました、それを一言で言うところといった形になって、これから2～3年重点的にやっていくのはこうですよというようなものを「まちの課題の変化」のところに書いて、それを具体化していくのにこうしていきますよ。という感じに。

（藤田副委員長）

例えば上の「まちの課題の変化」の3つめだと、建物ができて駅周辺を利用する人が増えた、次はその増えた人たちの利便性を向上させるために、工事を早く完成させますというのは順番が違うが、対応はしていると思うので、そういった意味ではまちづくり協議会というものもできたので連携してこの地域がより一層活性化できるように考えていきます。ということのなかに多様な住民の参加の仕方もあるので、「住民参加のプロセス」については検討が必要であると考えます。

（内田委員長）

今後のスケジュールをみせてもらってもいいですか？評価結果公表とは一応国へ報告しないといけないのですか？

（事務局 田山）

そうですね。本委員会を経てこの評価シートを修正させていただいて国に3月に報告するというふうに考えております。

（内田委員長）

では中身を精査して議論して、手直しするという時間は十分あるのですね。

やはりどんな書き方にするかが、かなり問題になるように思います。当初思っていたのは、ご指摘いただいた内容の答えをこの場に出せるものは出して、後は事務局と委員長にお任せいただく。というふうに考えていましたが、やはり具体的に少し書き直してどのように受け取ることが可能かということを確認した方がよいと思います。

もう1度集まるということでもよろしいでしょうか。

では確認ですが、今日の段階では様式2-1について指標の1及び2については、指標の追加をフォローアップのときにやるということ「総合所見」で書くと。

それから「目標達成度」を「24年度の目標達成度」に変えることと、「1年以内の達成見込み」を「目標達成の見込み」等、そういった主旨に変えていただきたいということと、後、(4)の「定性的な効果発現要因」については状況、現状を事業の進み具合を含めて記載していただくと。(5)「実施過程の評価」実施内容についてはやった、やらないという過ぎたことですのでいいですが、「今後の対応方針等」については再度検討していただくと。個人的には「住民参加のプロセス」というのと、「持続的なまちづくり対策の構築」というところの間の線を取って欲しいです。

様式2-2については左右に整理していただかないと今の段階では考えにくいところがありますが、「まちの課題の変化」などについて項目立ての仕方、何をここで書くべきなのかということも未整理だと思うのでここは重点的に再検討していただきたいところです。

他に何かございませんか？

(藤田副委員長)

この整備全体のイメージというか、進むべき方向が示されているので書かれている内容については整理していただければ賛成できるのですが、個別の問題をどういうふうにしていくのかというところで、書き込むか書き込まないかはありますが、個人的な意見で、やはりあの自転車は計画の時点から懸念されていて、今もお解消されているとは言い難いと思います。利便性を高めるという点ではお店の前に自転車を止めるということは私もしていますし、否定もしませんが、防災という面を考えたり、持続可能なまちづくりというのはやはり、バリアフリーも含め、安心安全というふうにいけば本来置くべき場所でないところに置くというのは問題は問題として残っているという意識を持っていますので、自転車に特化する必要はないと思いますが、今回のこの場所でなくてもぜひ引き続きご検討していただきたいと思います。

(内田委員長)

関連事業として公共駐輪場の整備も入っているので、自転車についてどう考えていくのかは全く無関係ではないと思います。

(藤田副委員長)

まちづくりということについて、やはり面的によくしていこうということであれば、自転車利用というのは外せない問題だと思いますので、これは今後の駅前事業とも関わって

くると思います。

(内田委員長)

全体の流れのなかでこの問題はどこに入ってくるのかということは事務局の方で考えていただいて。

(藤田副委員長)

あくまで今回の評価であればということでしたら、入っていないことに疑問はないのですが、今後のまちづくりの方策として、車椅子は通ると思うのですが、やはり本来置かないところに置いてある現状は、これは全国共通の悩みであると思いますが是非ともご検討いただきたいと思います。

(内田委員長)

西岡委員はいかがですか？

(西岡委員)

ほとんど話はしたので、後は事務局と委員長にお任せしてもいいのですが・・・
まちの商店街の活性化というのはなかなかね・・・全国的にもシャッター通りが多いということで、対策を練っているが都心へ行っても同じような状態です。
これを解決するのは至難の業です。その中で協議会を立ち上げてもらって、特に和泉市は観光名所も多いので、これらを活用して是非とも盛り上げていきたいですね。

(内田委員長)

一朝一夕に解決するような問題ではないですが、きちんとフォローアップして状況を把握する努力はしていただければと。

では次回のお話ですが・・・

(事務局 坂口)

次回再度委員会開くということで、書類の整理等目途がつかましたら連絡させていただきます。

(内田委員長)

目標としてはどれくらいですか？

(事務局 坂口)

12月くらいですかね。

(内田委員長)

ひょっとしたら来年1月に入ってしまうかもしれないですかね。

(事務局 坂口)

また調整させていただきます。

(内田委員長)

わかりました。それでは進行をお返しします。

(事務局 矢倉)

内田委員長はじめ各委員につきましては、長時間に及ぶ審議ありがとうございました。

和泉府中駅周辺のまちづくりを考えていくなかで、貴重なご意見、ご提案をいただきましたのでそれを活かし再度中身を検討させていただきます。次回委員会を開催させていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

本日はありがとうございました。

(司会者)

これをもちまして、第1回和泉市都市再生整備計画事業評価委員会を閉会いたします。